

平成29年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

		努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
教務	教務部	努力目標 開かれた学校づくりの推進	①学校のさらなる認知度アップをはかる。	①学校案内・学校要覧・学校説明会等を通して認知度をアップできたか。	①今年度も学校説明会を実施した。また、HPも頻繁に更新し、さまざまな行事等の紹介ができた。部活の横断幕は昨年ほどは更新できなかった。	B	①次年度も学校説明会を継続し、認知度アップにつなげたい。またHPの一層の活用も図りたい。一日体験学習をより充実させるための方策の検討を行いたい。
			②中学校との連携強化をはかり、本校の内容の理解度アップをはかる。	②中学校訪問を通じて本校の内容の理解度をアップできたか。	②多くの中学校を訪問させていただいた。各中学校の先生方と話し合うことで、本校の内容の理解度のアップにつながった。		②各校から質問があった事項を分析し、次年度の本校の情報提供に活かす。それにより、本校のさらなる理解度アップを目指す。
			③生徒・保護者が入学を望む学校にする。	③入学希望者を増やせたか。	③一日体験学習は、昨年度より参加者は減少した。最終の本校への進学希望者数は、G科はやや増加、S科はやや減。		③日々の教育活動の一層の充実を図る。
	渉外部	目標設定の理由 さまざまな活動を通じて積極的な情報提供を行い、保護者・地域との連携を深めながら、学校の認知度・理解度アップを目指す。	①PTA活動の円滑な運営に寄与する。	①PTA総会出席率70%を達成できたか。	①報告会と合わせても60%に届かなかった。	B	①ホームページや一斉メールなどで事前の周知に力を入れたい。
			②同窓会活動の活性化に寄与する。	②同窓会総会出席率を向上できたか。	②三十歳の会と合わせても20名程度であった。		②担当者の負担にならない程度に、プログラムを検討する。
			③地域・家庭に対して、学校活動をアピールする。	③ボランティアやインターネットなどを通じて、学校活動を地域・家庭にアピールできたか。	③各種ボランティアに積極的に参加することができた。ホームページは即時更新を心掛け、本校の最新の情報を掲載でき見違えるほどであった。		③今後もホームページの即時更新を心掛けていきたい。
	進路指導部	努力目標 進路実現に向けた効果的な学習環境の整備と充実	①3年間を見通したより能動的・実践的なキャリア教育及び進路指導の充実	①生徒の将来の自己実現を見据えた効果的な指導が各学年で実施できたか。	①生涯にわたるキャリア形成を見据えて、3年間のスパンでの指導計画を立案した。各学年の段階に応じて必要な内容を必要な時期に実践できるよう努力した。また、理論と実践のバランスも考慮して指導に当たった。	B	①全ての学年で、担任・副担が協力して生徒の指導に当たっており、この点は来年度も継続したい。また、新1年生から高大接続改革に関わるので、その要求に合うカリキュラムを検討する。
			②個に応じた進路実現の積極支援。「未来塾」の積極活用の推進。	②進学・就職・公務員などの多様な進路を目指す生徒への具体的支援を実施できたか。	②多様な進路に対応するため、全体指導では分野別に企画・実践し、担任を中心とした個別指導も充実していた。特に担任の先生方の指導が肝となっていた。		②全校体制での多様な進路に対応した指導に取り組んでいたが、「未来塾」の整備が停滞してしまった。利用する意欲のある生徒のニーズに合う環境を整える。
			③進路データベースを有効活用した全職員による進路指導の実施。	③全教職員同一クオリティを目指し、学校指導力の強化が図られたか。	③データベースによる生徒情報の共有や、データ化されたツールを指導に活用することで、学校指導体制の質の向上を図った。		③担任の経験が浅い教員と生徒数が多いクラス担任のフォロー体制を整え、高いクオリティの進路指導を生徒に提供する。
	学習指導部	目標設定の理由 進学・就職に柔軟に対応できる学習環境を整備・充実させ、学校総合力の向上を目指す。	①学習意欲の向上を図る。	①学習環境を整え、学習意欲の向上が見られたか。	①1学期、2学期共に学期末の欠点の人数が昨年よりも少なく、各教科・各学年の取り組みが実を結んでいる。	B	①1学期よりも2学期の方が赤点の人数はが多い。年間を通して同じ意欲を高められるようにしていきたい。
			②進路実現につながる基礎学力の向上を図る。	②進路実現のための、基礎基本を重視した授業や課外が実施できたか。	②課外日程を年間通して組んだことで1年見通した課外が実施できたと考える。		②学年によって基礎基本の定着度が異なることをよく把握し対応できるようにする。
			③資格・検定試験に積極的にチャレンジさせる。	③受験奨励と合格への指導の充実が行えたか。	③積極的に進路実現に向けて資格検定試験にチャレンジできたと考える。		③生徒一人一人の取り組みに大きな差がないように将来のビジョンの明確化からサポートしていきたい。

平成29年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

				努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
進	国語	努力目標 語彙力の向上と自己を的確に表現する力の育成	①表現活動を重視した授業内容を研究する。	①「話す」・「書く」活動を重視した授業を展開することができたか。	①授業の中のさまざまな場面において、主体的な学習を取り入れることを心掛けた。	B	①わかりやすい授業を目指して、これからも授業を向上させていきたい。		
			②読書に親しむ態度を育成する。	②読書の習慣を養う指導ができたか。	②読書感想文や「私の一行」などの応募などを通して、読書に親しませることができた。		②H R活動と連携した図書館の活用など、読書活動を活性化させる策を講じていきたい。		
			③漢検受験奨励と合格に向けた指導を充実させる。	③漢検の合格者数を増加させることができたか。	③合格者は増加させられなかったが、1学年と連携して集団受験も行った。漢検への意欲は向上している。		③過去問題集を一新し、事前勉強会をもう少し周知徹底していきたい。		
		地公	努力目標 基礎的な知識の定着	①生徒の実態に合った授業を展開する。	①わかりやすい授業を実施し、学習に意欲的に取り組ませられたか。	①ペアワークを取り入れるなどして、生徒自身に考えさせる授業をおこない、学習に意欲的に取り組ませる工夫をした。	B	①生徒の実情に合わせ、分かり易い授業をおこなうことで、生徒の積極性を引き出す工夫をする。ペアワークなど様々な授業形態も実践したい。	
				②適切な試験問題を作成する。	②基礎・基本を評価できる試験を実施できたか。	②生徒の理解度に合わせて試験問題を作成するとともに、試験前に個別指導をおこなうなどして基礎・基本の定着をはかった。		②定期試験に合わせた事前指導を徹底するほか、試験問題の工夫をして、基礎・基本の定着をはかりたい。	
				③進学指導を充実させる。	③進路目標を実現させるために必要な力を身につけさせられたか。	③時事問題を積極的に授業に取り入れ、面接や小論文で必要な力を身につけさせた。		③地歴公民科の各科目において、現代社会とのつながりを意識して授業をおこない、面接や小論文に活かしたい。	
		数学	努力目標 幅広い進路に応じた授業展開	①生徒に考えさせる授業の展開を図る。	①問題を解くことへの関心・意欲を引き出し、積極的な姿勢で取り組ませられたか。	①コンピュータや電子黒板などを利用して、数学問題への関心と問題を解く事への意欲を引き出すよう工夫した。	C	①ICTの活用にはある程度の効果は認められるが、更なる活用方法の研究が必要。また、ICT活用したクラスが一部となっていたので、クラス間あるいは教員間の格差が出ないようにする。	
				②基礎基本の定着を図る。	②定期テストや授業での取り組みを通して公式や考え方の手順など定着したか。	②ほとんどのクラスで少人数指導を実施し、個に応じて丁寧に繰り返し指導することで、定着を図った。		②授業内での定着を図る工夫をしているが、家庭学習が習慣化されていない生徒が多いため、どうしても一過性のものになりがちであった。新の意味での定着を目指して学習習慣の確立も図る必要がある。	
				③各科・各生徒に対応した指導に努める。	③習熟度別授業において、生徒の実態に合わせた授業が展開できたか。	③定期テストごとにクラスを再編成することで、個々の生徒により適切な習熟度別授業を提供した。また、課題の分量やレベルも生徒の実態に合った現実的な指導を行えた。		③習熟度のクラス編成は定期テストの結果で決定しているが、生徒の希望と必ずしも合っているわけではない。クラス編成の方法は見当の余地がある。	
	理科	努力目標 探究心の喚起・向上	①基礎学力を定着させる。	①定期試験で40点未満を出さないようにできたか。	①文系クラスの理科は、かなり苦戦して赤点も数名でたが、そのフォローを長期休暇期間やテスト前に適切にすることができた。	C	①平均55～65に調節し、下位の者が点を確実にとれる工夫をしていきたい。一方で上位の者の力をみる問題にも一工夫していきたい。		
			②自然科学における興味関心の向上を図る。	②実験の考察や感想がしっかり書けるよう指導できたか。	②実験の考察や感想を書くだけでなく発表させたりすることで多様な考えを共有することができた。		②考察する過程でいかなる考え方をしても良いという環境作りをして更に考えが深まるようにしていきたい。		
			③新指導要領の主旨に則った教材研究に努力する。	③新指導要領に則った演示実験・指導方法の改良が行えたか。	③お互いの考え方を共有し、そこから出てくる新たな疑問などを話し合うなどが出来た。		③正しい考えのみを発言しがたところを、如何に上手に発言させるか、指導方法の工夫をしていきたい。		

平成29年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

			努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
路 指 導	各 教 科	保体	努力目標 明るく豊かで活力ある生活を営む 実践力と態度の育成	①生涯にわたって計画的に運動・スポーツに親しむ事のできる能力を育成する。	①自ら率先して運動やスポーツに取り組む実践力や態度を養う事ができたか。	①率先して運動やスポーツに取り組んでいる生徒は増えたが、全員に定着するのは時間がかかる。	D	①率先して取り組むことができる実践力や態度を養えるように授業で働きかけしていく。
				②健康の保持増進のための実践力や態度を育成する。	②「健康であること」の意義を理解し、それについての正しい意思決定や行動選択のできる体を養う事ができたか。	②保健の授業を通じ健康について理解し、意思決定や行動選択ができるようになってきている生徒もいるが、全員に定着していない。		②健康の保持増進のための実践力や態度を育成できるように、授業で指導方法の工夫をし、定着していくようにしていく。
				③心身共に逞しい人材を育成する。	③体育・スポーツ実践を通じて、目標や課題解決に自ら取り組むことのできる態度を涵養することができたか。	③明確な目標設定や課題解決をすることにより、具体的な行動を考え取り組めるようになってきた。		③目標設定の重要性を理解させ、問題解決できる能力を今後も身に付けることができるように授業で取り組んでいく。
	各 教 科	芸術	努力目標 生徒一人ひとりの感性を高める授業の推進	①様々な音楽や美術の芸術作品に触れ基礎知識を身につけさせる。	①多種多様な芸術を鑑賞したり活動したりする中で、芸術の基礎知識・理解力を高めることができたか。	①多種多様な芸術を鑑賞したり活動する中で、一部の生徒は芸術の基礎知識・理解を高めることができていたが、難しく感じて、活動はしても理解力が高まるまでは行かないこともあった。	B	①多種多様な芸術に、より多く触れるようにし、2・3年では1つの教材についてより深く学び、他の教材とも関連づける。
				②個々の進度に応じた教材を選択させ、一人ひとりの技術力・表現力を向上させる。	②生徒の進度に合わせ、一人ひとりに合った助言をし、多面的な視点で指導することができたか。	②生徒により、技術差が大きく、苦手意識がある生徒に対する助言はうまくいき、よく取り組めていた。		②苦手意識がある生徒に、引き続き助言を行い、得意なことやできることを増やせるように指導していく。
				③表現力を向上させる授業の工夫をする。	③各自のアイディアを活かし、生徒の表現力の向上につながる支援ができたか。	③受け身になりがちな生徒に、他の生徒の様子からヒントを得させる支援ができた。		表現力向上のため、グループで話し合い、お互いにヒントを得られるような支援を行っていく。
	各 教 科	英語	努力目標 基礎的英語力の向上	①基礎基本を定着させる。	①反復練習や小テストを通して基礎的な文法事項・語彙の定着が図れたか。	①努力をしている生徒は、成果が現れ始めているが、定着には時間がかかる。	B	①基礎基本の定着のため、根気強く繰り返して学習させる。
				②生徒の学力・進路に対応した指導をする。伸びる生徒を積極的に支援する。	②習熟度別授業等を通して生徒の実情に合わせた授業・課外授業が展開できたか。	②1年スポーツ科の習熟度別授業では、生徒の学力に合わせた授業を行うことができた。また、積極的に学ぼうとする生徒もいる。		生徒の学力に合わせた授業や課外を継続し、意欲がある生徒をさらに伸ばす授業を行う。
				③英語教授法の研究をする。	③授業研究会・研修を通して教授法を研究し分かりやすい授業を目指せたか。	③各自研修に参加し、授業改善を行っている。		研修で学んだ教授法等を共有する。

平成29年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

				努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
		家庭	努力目標 生徒の自主性を尊重した生活に必要な知識と技術の習得	①興味・関心を持たせ、学習に取り組ませる。	①生徒の興味・関心が高まるよう題材に工夫できたか。	①実生活で活用できる実習内容にするなど、生徒それぞれが実生活の中で学習の深化が図れるよう題材を工夫できた。	B	①自分の考えや取り組んだ結果などを発表する機会やアクティブラーニングの手法を取り入れた授業を展開し、さらに学習への興味関心が高められるよう授業改善を行って	
				②授業や実習を通して、一人ひとりの知識・技術を習得させ、実践的な態度を育てる。	②少人数授業を展開し、実技テスト等を通して、知識・技術の定着が図れたか。	②少人数授業を展開できたことにより、きめ細かな指導ができた。計画的な実技テストを実施したことにより、技術の向上・定着がみられた。		②知識・技術の定着度に応じた対応及び指導について検討していく。	
				③安全に配慮して実習を行わせる。	③調理に適した身支度をさせ、安全に実習を行わせることができたか。	③継続的な指導の結果、ほとんどの生徒が調理実習にふさわしい身支度が準備できるようになった。安全・衛生的に実習が実施できた。		③十分達成（100％）になるよう、継続的に指導していく。さらに安全・衛生的な環境のもと実習に取り組むことができるよう環境整備に努めていく。	
		情報	努力目標 多様な問題解決におけるコンピュータの効果的な活用方法の習得	①情報モラル・マナーを身につけさせる。	①授業を通じて情報モラルやマナーの意識を向上させられたか。	①授業の中で具体的事例を列挙するなどして情報モラルやマナー意識の向上を図った。	B	①SNSに関するトラブルは依然としてなくならないので、折に触れてモラル・マナー指導は実施する。	
				②各種ソフトウェア (Word、Excel)の基本操作の習得を図る。	②実習を通して各種ソフトウェアを使いこなせるようになったか。	②Word、Excel等各種ソフトウェアの基本操作はできるようになった。		②ExcelやPower Pointの操作についてはより発展的なスキルの指導の余地がある。	
				③ワープロ検定・情報処理検定の受験を奨励し、上級合格者を出す。	③合格者数を増加させることができたか。	③受験者は微増で、合格率も微増。過去例のない上級の検定合格者が出た。		③年々一部上位の生徒のパソコンスキルは上がっている。それに応じて教員の指導力の向上が必要。	
生徒指導	生徒指導部	努力目標 いきいきとした学校づくりの推進	①望ましい人間関係の構築。	①挨拶運動の推進、挨拶の励行 ②いじめ解消率の増加	①挨拶運動はほぼ計画通り実施できた。地域・外部の方から元気な挨拶ができるという言葉を何回かいただいた。②今年度、いじめ認知件数は15件と積極的な認知が行われた。生徒によって観察や対応中の生徒がいるなど様々であるが、解消に向けて継続的な対応をしている。	B	①挨拶運動は今年度の形で実施予定。 ②評価基準を「積極的な認知ができ、解消に向けて働きかけることができたか」にしたい。解消については、表面的な解消にならないように注意したい。		
			②交通事故防止と交通マナー向上。	②交通事故減少、苦情の減少ができたか。	②昨年度比・・・交通事故報告（－2件）、苦情（＋5件）		全校集会・学年集会・HRにおいて、自転車利用5則の理解と遵守に努めたい。掲示物や配布物を工夫（マナーテストなど）するなどして、交通マナーの意識を高め、交通事故加被害の減少に努めたい。 今年度は大幅な減少になったが、引き続き「私物の自己管理意識の高揚」、「必要以上のお金・高価な物を持ち込まない」ということを生徒に伝えていきたい。		
			③盗難被害の減少	③被害の減少ができたか。	③昨年度比・・・－9件				
	保健安全 厚生部	学校の中心は生徒である。心身ともに逞しく、自ら進んで学習・スポーツに取り組むことのできる姿勢を育ていく。	①健康的な生活を確立する。	①各種検診の結果の把握と精検受診率の向上ができたか。	①心電図、腎臓検診の受診率は100％を達成することができた。しかし、昨年同様う歯、視力の精検受診率は1割前後にとどまった。個別指導の充実を図りたい。	B	長期休業中に検診を受信するように、個別指導の充実を図る。		
			②災害時における危険を予測し回避する能力を身につけさせる。	②周りの状況に応じて主体的に行動や対応することができたか。	②5月実施の地震避難訓練の避難時間は7分40秒程度で、9月の火災避難訓練は6分44秒であった。2回目のほうが早くなったが、昨年より1分以上悪い。2回目は煙霧体験を取り入れることができ、昨年より内容は充実した。		体験活動も含め継続実施。		
			③美化活動を推進する。	③校内美化に努めさせることができたか。	③生徒による学校生活の集計結果はH27で62.0%、H28で64.2%、H29で65.3%とH26以降4年連続で上昇傾向である。目標を明確にした月1回の大掃除の成果となったと感じる。		5年連続上昇となるよう意識の向上を図る。		

平成29年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

		努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
専門 学科	スポーツ科	努力目標 スポーツ文化の発展に寄与することのできる人材の育成	①体育・スポーツの指導者・リーダーとしての基礎的な知識や態度を養う。	①理論学習の充実及び生徒自らが考え、判断できる授業が展開できたか。	スポーツ概論とスポーツ総合演習の授業においては、意欲的に取り組めない生徒が見られた。	C	授業において、生徒の意欲をかきたてるような工夫をしていく。
			②運動の理解と合理的な実践により、正しい運動の方法論や実践能力を養う。	②各種目や運動の特性を理解させ、自主的計画的に運動ができるように促した授業が展開できたか。	実技の授業には意欲的に取り組む生徒が多いが、自主的計画的にできるまでには至っていない。		まずは意識が高い生徒にもっとリーダーシップを発揮させるところから始めたい。いずれは全員が自主的計画的に運動できるように育てる。
		目標設定の理由 専門的な知識と高度な運動技能の習得により、次代のスポーツ人の育成に重点を置く。	③心身のバランス、個と集団のバランスのとれた人間性を育成する。	③個の役割を明確にし、生徒一人一人が自覚ある行動がとれるような授業を展開できたか。	身体は鍛えられているが心が幼い、自己主張は強いが集団に貢献できない、そのような生徒が見受けられる。		心の教育に力を入れ、豊かな人間性を備えさせていく。
			④専門的な知識や運動の実践と部活動をリンクさせ、より一層高度な実践能力を身に付けさせる。	④意図的・計画的に専門種目の技能、戦術眼、体力、精神力、モラルやマナーの向上に努める事ができたか。	部活動や学年により意欲や取り組み状況に差が出た。スポーツ選手らしいモラルやマナーが身につけていない生徒も見受けられる。		前述の座学や水泳、持久走などへの取り組みについて、好き嫌いや損得で考えるのではなく、スポーツ選手としてレベルアップにつながるという考え方ができるように指導する。